



会 長 挨 拶



(公社)全埼玉私立幼稚園連合会

会長 四ツ釜 雅彦

コロナ禍に思う

発生から約一年が経過した新型コロナウイルス。緊急事態宣言が解除された後も感染者数は増減を繰り返して、一週間あたりの感染者数は宣言解除前よりも多くなっています。有効で安全性の高いワクチンが開発されるにはもう少し時間が必要だと言われています。一方で冬に入りインフルエンザとダブルで流行するのではないかとの懸念から、インフルエンザワクチンが品薄状態になっています。

生活スタイルもWithコロナ、コロナと共生する「新しい生活様式」が提唱され、三密を避けるのが当たり前となっており、テレビを見ていてもリモート出演や衝立越しのやりとりがすっかり定着しています。

またGoToトラベルをはじめとする各種キャンペーンが開始されました。経済活動再開への動きが活発化し、かつての「自粛警察」から、「マスク警察」「消毒警察」という、マナーを守らない人を過剰に指摘する人た

ちが現れ、あちこちでトラブルが生じました。

保育の現場でも、卒園式・入園式の縮小や延期、遠足、お泊まり保育、夏祭りなどの各種行事が中止や変更を余儀なくされました。

運動会は、経済活動再開の動きもあり、園児募集に絡んだ行事ということも相まってか、「感染防止のために縮小しよう」という後ろ向きな思いではなく、「縮小してでもなんとかやろう」という前向きな思いで実施した園がほとんどだったのではないのでしょうか。それだけではなく、「このままで子どもたちに思い出を残してあげられない」という申し訳ない気持ちも強く働いたようにも思います。

こうしたコロナの影響は、一連の園行事を見直すきっかけにもなりました。例年どおりにやっていた行事が、実は子どもたちにも準備をする先生にも負担になっていた、これは子どもたちのための行事なのか、親のための行事なのか…。

そしてコロナ禍により行事をスリム化してみた結果、「なんだ、これで

もいいじゃないか」と思える行事や、逆に「子どもたちに必要な経験をさせられなかった」という行事もあったことかと思えます。

私たちは新型コロナウイルスを経験し、この窮屈で不便な生活から早く元の生活に戻ることを願っています。しかし、すべてが元どおりになることはないとも言われており、保育現場での新しい生活様式を探っていくことが必要なことです。マスク・検温・手指消毒は当然ですが、親受けや見栄えを気にして肥大化した行事のスリム化や、時代にそぐわなくなった行事を思い切ってカットするなどの見直しとともに、時代が変わってもなくしてはならない行事を大事に守っていくことも大切です。

コロナのおかげで何もできなかったと嘆くのではなく、十年先、二十年先に「あの時は新型コロナウイルスが流行ってね」と語り合える、コロナ禍だからこそその思い出が作れるよう知恵を絞っていこうではありませんか！

CONTENTS

- P 1 会長挨拶
- P 2 永年勤続表彰
- P 3 新採研
- P 4 合同就職説明会
- P 5 園長・主任研修会
- P 6 令和2年度下期事業計画
- P 7 ティータイム
- P 8 彩の国 幼稚園めぐり